

平成28年度 第2回 匝瑳市食育推進協議会 会議録

会議の概要

開催日時	平成28年11月30日(水) 13時30分から14時50分まで	
開催場所	匝瑳市民ふれあいセンター 1階 第1会議室	
出席者の氏名	委員	南波隆(匝瑳市校長会 給食担当) 鎌形晴美(匝瑳市保健推進委員会 副会長) 鈴木良則(匝瑳市商工会青年部 部長) 柴崎美佐子(ちばみどり農業協同組合 営農センターそうさ調査役)
	代理人	椿進(学校給食センター所長)
	事務局	作佐部勝美(産業振興課長:委員と兼務)
欠席委員	川手一宏(旭匝瑳医師会 理事) 大木すみ江(匝瑳市商工会女性部 部長)	越川淑美(匝瑳市PTA連絡協議会 会長) 小林淑子(匝瑳市農業振興会朝市組合 副組合長)
議題	(1) 市民意識調査の結果報告について (2) 計画骨子及び計画(案)について (3) その他	
配付資料	会次第 資料1 第2次匝瑳市食育推進計画(案) 資料2 食育推進計画策定のためのアンケート調査報告書 資料3 匝瑳市食育推進計画 数値目標の達成状況について 資料4 第3次食育推進基本計画(国計画)の概要 資料5 第3次千葉県食育推進計画(案)の概要 資料6 第3次千葉県食育推進計画(案)	

議事要旨

発言者	発言要旨
事務局	第2回 匝瑳市食育推進協議会 開会の挨拶
会長	挨拶
事務局	資料確認 欠席委員の紹介、会議の出席状況の報告、会の成立の報告

発言者	発言要旨
会長	挨拶 議題（１）市民意識調査の結果報告について 事務局の説明を求める。
事務局	資料２ 食育推進計画策定のためのアンケート調査報告書 及び 資料３ 匝瑳市食育推進計画 数値目標の達成状況について を 基に説明
会長	意見等あるか。 また、事務局の方で、アンケートから気付いたことや委員に意見を 聞きたいことはあるか。
事務局	アンケートから全体的な傾向は読み取れるところだが、学校・給食 について伺いたい。 報告書の P94 小中学生に対する調査の質問 15「給食の時間について」 をご覧ください。 回答状況を見ると、学校給食の満足度は総じて高いが、前回の調査 と比較して「とても楽しい」と答える割合も増えている。 アンケートではその要因までは読み取れなかったので、学校や給食 センターの立場から、ポイントと思われるところを伺いたい。
会長	では、私から申し上げます。 今日は午前中マラソン大会があり、お昼は保護者の協力のもと、豚 汁を作ってみんなで食べた。子どもたちに「普段の給食とどちらが美 味しい？」と尋ねてみたところ「どちらも美味しい」との答えが返っ てきた。私からすれば、子どもたちから「給食よりも美味しい」とい う答えが返ってくるものと予想していたが、子どもたちは甲乙つけが たい様子だった。子どもたちが日々の給食を楽しみにしていると感じ た。 なぜそうなのかと考えると、献立の工夫や、食器が変わったこ とがあるのだと思う。昔は小さい容器で食べていたが、今は意外と大 きく食べやすい。 また、この前も給食センターの栄養士の方が、子どもたちからレシ ピを募集してコンテストのような取組みを行っていた。「今日は〇〇 さんが応募してくれたレシピで作ったお昼です」というように、子ど もたちとの交流を続けている。 保護者のアイデア含め、意見の吸い上げや子どもたちへのアピール の仕方が上手いと感じた。子どもたちにとって給食が良い時間なのだ と思う。
事務局	学校側からのご意見をいただいた。給食センターでの取組みや工夫 について、給食センターの椿所長からご意見を伺いたい。

発言者	発言要旨
代理人	<p>実は今日も、小学校にお邪魔して生徒と一緒に給食を食べてきた。訪問して子どもたちの様子を見てみると、楽しく、よく食べてくれている。全体として残食は多く出るのだが、訪問すると子どもたちは頑張ってくれてくれる。</p> <p>センターとしては、献立の工夫はもちろん、「そうきランチタイムス」による広報、栄養士訪問による食事・栄養の講話などを行っており、効果があると考えている。</p> <p>今年は給食レシピを生徒から募集し、今回は野栄中学校の方のレシピが実際の給食に使われた。</p> <p>給食センターの取組みとしてはそういったところだが、各学校の取組みも大きいと感じる。</p>
事務局	<p>先日、計画作成を実務する専門部会で、給食センターの試食・見学会を行った。自分も給食から離れて久しいが、とても美味しく感じた。</p> <p>その日のメニューは、ちょうど中秋の名月に因んだ行事食であり、月見団子汁やみたらし団子などを頂いた。自分の頃にはそうしたメニューは無かったと思う。専門部会員からも、給食はとても頑張っていると話が出た。学校と給食センターの取組みが効いている部分かと思う。</p>
会長	委員の皆さんは、給食を食べる機会はあるか。
委員	視察・試食した。美味しく、栄養管理もしっかりしており、衛生面も整っている。
会長	見学しやすいように見やすく設計されていると思う。
事務局	給食センターでは、事前申込をすれば見学・試食ができる。
代理人	事前に1週間ほど前に申込みいただければ、試食の用意ができる。機会があればお越しいただきたい。
会長	<p>別の項目だが、赤ピーマンの認知度が上がっている。赤ピーマンのキャラクター「あっぴいちゃん」や学校給食を通じたPRにより、子どもたちからじわじわと認知を高めていると思う。</p> <p>赤ピーマンはテレビに取り上げられる機会も多く、マスコミの力は大きいと感じる。</p> <p>今後も赤ピーマンは匝瑳市産のものとして、そうきランチタイムスなどを通じて子どもたちに意識づけしていくと良いと思う。</p>
事務局	先日 JA のピーマン部会で、小学生を招いて赤ピーマンの食育事業を行ったと聞いた。柴崎委員、赤ピーマンについて何かあるか。
委員	現在、赤ピーマンは競争が激しく、市況が下がっている。JA がタイアップして、試食や見学などPRに力を入れている。

発言者	発言要旨
委員	もともと匝瑳で作っていたものが、他産地でも普及してきたということか。
委員	価格競争が凄い。茨城の産地は大量に生産・出荷している。消費者としては良いと思うが、生産者は厳しい状況下で頑張っている。
会長	そうすると、赤ピーマンは匝瑳市で作ったものというイメージがあるが、市場の競争原理で将来的に栽培されないことも懸念されるのか。
委員	<p>テレビの影響もあり赤ピーマンは人気が出た。赤ピーマンは作るのが大変で、通常のピーマンは3か月で出荷できるところ、倍の期間かかる。また、無農薬に取り組む場合は、高価な天敵農薬が必要になる。</p> <p>苦労も多いが、安心・安全なものを、ぜひ地元で食べてもらいたいと思う。</p>
委員	<p>赤ピーマンは特許などを取得していないため、他の産地でも、誰でも作れる。</p> <p>通常の倍の期間をかけて栽培するため、手間もコストもかかり、見合った金額でないと採算が合わない部分もあると思う。</p>
事務局	<p>産地としての話、あるいはブランドの話になるかもしれないが、赤ピーマンについては商工会でドレッシングなどの加工・商品開発を手掛けているほか、給食などでの活用も見られる。</p> <p>こうした取組みを通じて、まずは内向きかもしれないが、それぞれが連携しながら、食に対する知識の普及やブランドとして発展していけばよいと思う。</p>
会長	小中学生の問題として、副菜を食べる割合が下がっている。朝食は意外と摂っていないのではと感じる。
事務局	保育士の専門部会委員からは、「欠食は現場でも課題であり、食事の内容はともかくとしても、朝はパン一個でもいいから食べてほしい。食事の内容まで求めることは、もしかしたらレベルが高いことなのかもしれない」という意見があった。
会長	<p>小中学生ではないが、ある大学の学食では100円で朝食が食べられるという取組みを見たことがある。逆に言えば、それだけのことをしないと学生は朝食を食べないとのことだ。我々の想像以上に、小中学生・高校生、若い人は朝食を食べていないのではないだろうか。</p> <p>アンケートでは食べたと書いてあっても、実際どうなのかといえれば、不十分な部分もあり、だからこそ現場では「パン一個でもいいから」という切実な部分があるのだと思う。</p> <p>その一方で、夕食は家族団らんでやっているように見える。</p>
事務局	朝は時間がないこともあり、朝食の充実は難しいが、夕食は家族そろって一緒に食べよう、という市民の意識が見えてくる。

発言者	発言要旨
会長	<p>アンケートからはそう見える。</p> <p>ここ数年子どもたちを見ている、本当に朝食を食べているのかなという心配することはある。</p>
事務局	<p>国の計画では朝食の欠食について、「若い世代の男性の朝食の欠食割合の減少」という形で、世代と性別を狙い撃ちにして目標を定めている。それだけ若い世代は朝食を食べていない。</p> <p>小中学生からのライフスタイルを引きずり、さらに生活の節目、節目で朝食を食べる習慣が一層無くなっていくとすれば、やはり小さいうちから朝食を大事にする必要がある。</p>
会長	<p>その他にあるか。(なし)</p> <p>では、アンケートで浮かび上がったイメージを計画に盛り込んで、改善を図っていくということで、計画内容の協議に入っていきたい。</p> <p>議題(2)計画骨子及び計画(案)について事務局の説明を求める。</p>
事務局	資料1 第2次匝瑳市食育推進計画(案) を基に説明
会長	私から先に確認したい。平成29年3月にこの計画を公表することだが、それまでの間に意見を出す場は何回ほどあるか。
事務局	<p>会議としては後1回を予定している。その他、随時ご意見を賜りたいが、今後のスケジュールについてお知らせすると、庁内での調整や市民に対するパブリックコメントなどを実施するため、何かあれば遅くとも1月末までにはご連絡をいただきたい。</p>
会長	では、何かあれば1月中に事務局に連絡するというようお願いしたい。本日この場でのご意見はどうか。
委員	先ほどのお話と併せて、今度中の予定の概略を確認したい。各課照会の後にはパブリックコメントの実施ということでよいか。
事務局	<p>その通りである。当初お配りしたスケジュールから遅れてしまい恐縮だが、12月中に計画素案の内容を固め、その後各課照会を経て、パブリックコメントで市民の意見を伺う。</p> <p>さらにその後、協議会・専門部会を開催し、内容確認と調整を行う予定である。</p>
委員	第2次計画ということで、第1次計画の数値目標に対する検証は何処に入れるか。また、第2次計画の数値目標はどのようなものになるか。
事務局	<p>本日の会議では資料2として分けてあるが、内容を整理して計画内に位置付けたい。</p> <p>新計画の目標については専門部会で協議し、各課照会を経て決める。</p>

発言者	発言要旨
会長	現行の計画の達成状況は、新計画のどこかに入れるか。新たに項をつくのか。
事務局	場所については検討する。
会長	事務局のやりやすさ、計画の見やすさ・体裁の中で調整してほしい。他にあるか。 それでは私から。ハスについては前回の会議でも話題になったが、認知度が下がっている。これは、過去には盛んだっただけでも、近年は市を特徴づけるものではないということか。
事務局	農協に確認したところ、現在も2件ほどの生産者がいるが、昔ほどの産地としてのイメージは無い。ハスについては、これからも繋いでいくべきなのか、現在はそぐわないとして整理すべきなのかは悩みどころである。
会長	現在と最盛期の出荷状況の比較は可能か。
事務局	農協に確認できるものがあればよいが。
会長	最盛期は、過去何十年も前だと思うが、そこから比べると、現在は2件。こうなると、郷土の中の歴史的な部分として、盛り込むかどうかだと思う。 今は、駅前にセリやハスを作っていたことをイメージ出来る方は少ないのだろうか。
委員	自分たちの年代は、冬になると農家がハスやセリを収穫している様子を見ているし、正月近くになると農家から買った記憶もある。
会長	自分も以前、八日市場駅のホームから、農家が寒い中、水の中に入ってハスを洗っている様子が目に焼き付いている。 しかし、今はハスと言えば土浦など茨城のイメージだ。
事務局	個人的なことで恐縮だが、自分もハスの印象は無い世代である。 例えば、旭市は県内落花生発祥の地だが、今は産地としてのイメージはない。時間的な距離が空くと、現在との関わりがなくなってきてしまう。
会長	食文化や郷土料理としてはどうか。ハスやセリの料理などは今も食べるか。
委員	福神漬けや酢蓮などは、正月料理として入っているかもしれない。
会長	生産量はともかく、食文化や郷土料理となれば、今でもニュアンスが息づいているかもしれない。農協さんは、ハスを使った料理などはどうか。

発言者	発言要旨
委員	<p>無いと思う。セリの出荷組合は、平成13年の農協合併前に高齢化により解散している。駅前も造成等により農地も無くなってしまった。</p> <p>伝統料理としても違う気がする。販売しているお店が無いわけではないが、少ない。</p>
委員	<p>埼玉県の川越市はサツマイモのイメージが定着しているが、実際は産地として作っているわけではない。作っていないが、文化として残っているということだ。そういったものであればいいと思うが。</p>
事務局	<p>仙台市の牛タンも同様だ。牛自体はアメリカ産だが、誰もが牛タンと言えば仙台をイメージする。</p>
会長	<p>お店や食べる習慣が地域に根差しているということか。</p> <p>そうした観点から言えば、ハスやセリもごく一般的な正月料理として食べるが、その粋を出すものではなく、地域に根付いていないということか。</p>
委員	<p>そういう話をしていた中で、今、ハスやセリについては殆ど無いということになってしまうか。</p>
会長	<p>生産量的にも、郷土文化や食文化としても弱いとなれば、除外せざるを得ないのか。もはや歴史で語るしかない品目ということになる。</p>
委員	<p>何かを受け継がれていて、匠で食べられているということであれば食文化の範疇だが、今の状況では途切れていると認識せざるを得ないかもしれない。</p>
会長	<p>逆に大浦ごぼうは、シーズンになると必ずテレビで取り上げられる。</p>
委員	<p>成田山というブランドだろう。</p>
委員	<p>大浦ごぼうは、一見すると木ではないかと思間違えるほど、所見では誰もが驚く。</p>
委員	<p>メディアに載るか否かで、認知度は大きく違う。</p>
会長	<p>ハスについては引き続き検討が必要かもしれない。</p> <p>その他、全体的には、アンケート結果を反映して体系づけられていると思う。</p> <p>メディアと言え、インターネットも強い。農業まつり等は全然違う地域からもお客さんが来るのではないか。</p>
委員	<p>従来の広報に加え、ホームページや、最近ではツイッターなどでイベント情報を発信している。</p>

発言者	発言要旨
会長	<p>意外に見られていると思う。</p> <p>施策の展開の中にインターネットを通じた情報発信とあるが、様々な形で匝瑳市の食材や伝統料理のレシピ、農産物を発信すると広がっていくのではないかな。</p>
事務局	<p>様々な情報を発信していく中で、今年度から市のホームページでも食育のタグをつくり、農業・学校給食・健康管理など関連するものを繋げて情報提供を始めているが、郷土料理や特産品の部分は今後充実させていく必要がある。</p>
会長	<p>やりがいがある部分かもしれない。ぜひ取り組んでもらいたい。</p> <p>学校では、農業体験や調理の体験を農協さんとも連携して実施しているところだが、以前、炭焼き体験と言うのを実施した覚えがある。</p>
事務局	<p>地元の林業組合が、小学生を招いて炭作り体験を実施している。釜に木を入れて炭を作り、出来た炭を取り出し、イモや餅、マシュマロを焼いて食べたりする体験だ。</p>
会長	<p>子どもたちは大喜びだった。食べられる体験は喜ばれる。</p>
事務局	<p>産業振興課の実施する食育事業としては、地元の農家と連携した大豆づくり・味噌づくりや、旭市椎名内での昔ながらの塩づくり体験、匝瑳高校近くのたけおごはんで、その塩や地元食材を使った食事体験などの事業を行っている。</p> <p>各小学校を通じてチラシで周知すると、すぐ申込がいっぱいになってしまう。</p> <p>保護者の方は体験やイベントにアンテナを張っている。</p>
会長	<p>保護者が子どもたちに体験させたい、食べさせたいという思いを強く持っているのだと思う。</p> <p>この場で、他にご意見が無ければ、あとは事務局と随時調整ということよろしいかな。</p>
事務局	<p>この協議会には各分野から委員にお越しいただいている。</p> <p>引き続き、ぜひ様々な角度からのご意見を賜りたい。</p>
委員	<p>計画案は今日この場でお示ししたばかりのものなので、持ち帰ってご確認いただき、ご意見等があれば産業振興課までお寄せいただきたい。</p>
会長	<p>各委員の役職、分野や、その立場で検討を加えていただき、何かあれば事務局までお願いしたい。</p> <p>その他、何かあるか。</p>

発言者	発言要旨
事務局	<p>最後に、食品ロスについて説明したい。先日のことだが、11月28日付けの千葉日報の1面で、食品ロス問題が大きく取り上げられた。内容は30・10運動の紹介である。30・10運動は、長野県松本市から始まった食品ロス削減の取組みで、宴会開始から30分と最後の10分は自席で料理を楽しみながら食べること、食べ残しを減らそうというものだ。記事によると、千葉県内で館山市や佐倉市が積極的に取り組むとある。</p> <p>日本の食品ロスは、年間約600万トンと推計されている。これは全世界の食糧援助量300万トンの2倍であり、2回も世界を救えるだけの食糧が破棄されていることになり、食品ロスは国際的・国内的な課題となっている。</p> <p>国は、今年定めた第3次食育推進基本計画で、食品ロス削減を重点項目として掲げており、これを受けて千葉県や各自治体でも食品ロス削減に向けた取組みが見られる。</p>
会長	<p>匝瑳市でも、30・10運動に取り組む予定や計画に位置付ける予定はあるか。佐倉市では商工会と連携して市民に広めているようだ。</p>
事務局	<p>食品ロス削減のための具体的取組みは未定だが、環境生活課など関連課と協議・調整していきたい。</p> <p>食品ロスの削減には市民レベルでの理解と協力が必要なため、何らかの形で計画の中に位置付けたい。</p>
会長	<p>他にあるか。(なし)</p> <p>では、全ての議題の審議を終了したので、議長を降ろさせていただく。</p>
事務局	<p>議長お疲れ様でした。また、慎重審議ありがとうございました。</p> <p>本日は以上です。ありがとうございました。</p>